

第14回江北町における義務教育のあり方検討会要点

協 議

○教育的内容の打ち出しについて

【事務局案】

- ・小学校と中学校の間仕切りをなくし階段型からスロープ型の教育へ
小学校から中学校への進学に伴う子どもたちの環境の変化(階段)がなくなることで、中一ギャップと呼ばれる不安や戸惑いをなくすことができ、学童期から青年期までの切れ目ないかわりができます。
- ・9年間でたくさんの友だちと出会える
9年間学校生活を送る中で、同級生だけでなく上級生や下級生もあわせて多くの友達と出会うことができます。上級生への憧れや下級生への思いやりが生まれ、学校全体に兄弟姉妹のような縦の交流や子供たちのつながりなどの社会性が育まれます。
- ・夢につなげる“自分学”
自分自身でも気が付いていない“やりたいこと・やってみたいこと”を、対話の中で引き出し、自身の中で繰り返し心を見つめる時間を設定します。

【意見】

- ・表現を柔らかくし、対話の時間の設定や、きっかけづくりなどを、ふとした時に自分自身で思いつけるようきちっと決め過ぎず、言い切らない“自分学”の表現にしたほうがよい。
- ・子どもたちの内容から学校の内容につながるように発信の内容の組み換えをした方がよい。
- ・“自分学”は学校目標の“自ら学び心豊かにたくましく生きる”につながる取り組みで導入しやすいと思う。カリキュラムに組み込んだり職員を割り当てたりすることは難しいが、学期に1回ずつ実施している“先生あのね週間”や小学1年生から高校生までつながる“キャリアパスポート”などを利用すれば実現しやすいと感じた。
- ・子どもたちを“つなげる”がキーワード
- ・義務教育学校化することで得られる、財政的な国庫や集約化することで出来る施設のメリット等もあるのだから、やはりコストが安く新しい学校が出来ることは説得力があるので打ち出した方が良いのでは。